

組織の編制と活動

教員が互いに授業について語り合うための工夫

校内研究を進めていくためには、校内研究会だけではなく、日常的に授業について語り合うことが大切であると考えました。そこで、チーム・ティーチングの時間数の増加と、語り合う時間の捻出の二つの工夫を行いました。

チーム・ティーチングの時間数の増加

授業の出入りを工夫し、複数の教員で一つの学級に対して授業を行えるようにしました。

(例)

5年1組 理科

5年2組 算数



理科専科
教員



5年1組
担任



5年2組
担任

- ・理科専科教員が5年1組で授業を行う。
- ・5年1組担任は5年2組の授業にT2として入る。
- ・5年1組担任と2組担任は、児童が下校後に授業の進め方など、**協働で授業づくりを行う。**

語り合う時間の捻出

授業時間を工夫して、児童下校後の時間を今までより長く確保しました。

時間	内容
～8:15	朝の時間
8:20～8:30	朝の会
8:30～9:10	1時間目
9:10～9:15	休み時間
9:15～9:55	2時間目
9:55～10:00	休み時間
10:00～10:40	3時間目
10:40～11:00	中休み
11:00～11:40	4時間目
11:40～11:45	休み時間
11:45～12:25	5時間目
12:25～13:55	給食・昼休み・そうじ
14:00～14:25	学習タイム
14:25～14:30	休み時間
14:30～15:15	6時間目
15:15～15:25	帰りの会

- ・一単位時間40分
- ・午前中に5コマ

- ・25分の短時間学習
※午前の40分・5コマの調整

- ・午後の1コマは45分
- ・従来より15分早い
児童下校時刻

二つの工夫を行うことで、以前よりも授業について語り合う教員が増えました。一つの学級に、担任以外の複数の教員が関わることで、全校児童を全教員で育てるといった意識が高くなったように感じます。児童からは「給食の後は眠たくなるので、午前中5時間の方が集中して授業に取り組める」といった意見が聞かれました。
(C小学校 校内研究主任)